| 授業科目 | 発達心理学Ⅱ | | | | | 実務家教員担当科目 | - |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 単位 | 2 | 履修 | 選択 | 開講年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 杉本　有紗 | | | | | | |
| 授業概要 | 生涯発達心理学を提唱したバルテスは、「人は生涯発達し続ける」と捉えた。本講義では、生涯発達心理学の考え方に基づき、青年期、成人期、老年期の発達について解説する。青年期～高齢期の発達プロセスおよびその仕組みについて研究されてきた領域ごとに解説する。 | | | | | | |
| 授業形態 | 講義 | | | | 授業方法 | | |

| 学生が達成すべき行動目標 | |
|---|---|
| 標準的レベル | 生涯発達心理学の考え方、研究モデルを理解し、説明することができる。また、青年期、成人期、高齢期の発達について身体機能、認知機能、パーソナリティ、人間関係等の諸相から説明することができる。人生の終末期と死について考え、関心を持つことができる。 |
| 理想的レベル | 生涯発達心理学の考え方、研究モデルを自分の言葉や例を用いて他者に説明することができる。本講義で学んだ知識を用いて、青年期以降の人々の発達課題や抱える心理的・社会的課題について説明することができる。本講義で学んだ知識を用いて、青年期、成人期、高齢期の人々の支援について考えることができる。 |

評価方法・評価割合

| 評価方法 | 評価割合（数値） | 備考 |
|---|---|---|
| 試験 | 70% | |
| 小テスト | | |
| レポート | 30% | |
| 発表（口頭、プレゼンテーション） | | |
| レポート外の提出物 | | |
| その他 | | |

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

| DP1 | ○ | DP2 | - | DP3 | ○ | DP4 | - | DP5 | - | ナンバリング | WE21407J |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| 学習課題（予習・復習） | 1 回の学習目安（時間） |
|---|---|
| テキストの次回の授業該当箇所を読んでおく。<br>テキストや配布資料、授業時に用いたノートを元に、学んだ内容を振り返り、整理する。 | 4 |

授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | テーマ：オリエンテーション<br>授業の進め方について解説する。<br>テーマ：青年期・成人期・老年期の概観<br>この授業で扱う人生後半期の特徴について概観する。 |
| 第 2 回 | テーマ：青年期の特徴<br>思春期・青年期の生涯発達における位置づけや特徴について解説する。 |

| | |
|---|---|
| 第 3 回 | テーマ：青年期の発達<br>青年期の認知発達・人間関係について解説する。 |
| 第 4 回 | テーマ：人の生涯発達<br>生涯発達心理学の基礎概念、研究モデルについて解説する。 |
| 第 5 回 | テーマ：キャリア発達<br>生涯キャリアと退職後の生きがいについて解説する。 |
| 第 6 回 | テーマ：情報処理機能の発達<br>感覚・脳・認知機能の加齢変化について解説する。 |
| 第 7 回 | テーマ：記憶と学習の発達<br>記憶の加齢変化について解説する。 |
| 第 8 回 | テーマ：知能の発達<br>知能・知恵・創造性の加齢変化について解説する。 |
| 第 9 回 | テーマ：パーソナリティの発達<br>パーソナリティの変化と安定性について解説する。 |
| 第 10 回 | テーマ：家族とのつながり<br>家族関係の変化、家族のサポート、高齢期の家族関係について解説する。 |
| 第 11 回 | テーマ：他者との関わり合い<br>社会関係のとらえ方、高齢期の社会関係、高齢者の社会参加について解説する。 |
| 第 12 回 | テーマ：高齢期のこころの病気<br>気分、意識の障害と認知症について解説する。 |
| 第 13 回 | テーマ：老いと死<br>高齢期にある人と死について解説する。 |
| 第 14 回 | テーマ：老いて、生きる・まとめ<br>超高齢期の課題、家族介護の限界とコミュニティケアについて解説する。 |
| 第 15 回 | テーマ：まとめ<br>これまでの授業内容を振り返る。 |
| テキスト | 『老いのこころ　加齢と成熟の発達心理学』佐藤眞一・髙山緑・増本康平著　有斐閣 |
| 参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介 | 『思春期・青年期　臨床心理学』伊藤美奈子編　朝倉書店<br>『発達心理学下　青年・成人・老年期』山内光哉編　ナカニシヤ出版<br>『発達心理学Ⅱ』無藤隆、子安増生編　東京大学出版会<br>『エピソードでつかむ老年心理学』大川一郎、土田宣明、宇都宮博、日下菜穂子、奥村由美子編著　ミネルヴァ書房<br>『最新老年心理学』松田修編著　株式会社ワールドプランニング<br>『高齢期の心理と臨床心理学』下仲順子編　培風館<br>『高齢者心理学』一番ヶ瀬康子監修　下仲順子･中里克治編著　建帛社<br>その他、必要に応じて紹介する。 |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 試験 70%（ＤＰ1-1、1-2)、小レポート 30%（ＤＰ3-1、行動目標 7）で評価する。<br>成績発表後に、評価点分布図を提示する。 |

| | |
|---|---|
| 学生へのメッセージ・コメント | 特にありません。<br>『発達心理学Ⅰ』は青年期までの発達を中心に扱っています。<br>この『発達心理学Ⅱ』では、青年期以降を扱います。<br>『発達心理学Ⅰ』を受講していなくても、受講できますが、併せて履修されると、生涯にわたる心の発達の理解が深まります。<br><br>　上記のテーマに関する雑誌や新聞記事、インターネット、テレビのニュースからの情報収集をしてみましょう。<br>　また、生涯発達の視点を踏まえた観察の眼を、自分より上の世代の行動や社会活動に向けてみてください。 |